

【別紙様式 I】 令和4年度 学校評価報告書

学校名 清水小 学校

厚木市教育委員会の基本目標	1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】
	2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】
	3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】

校長名 笠 昇

学校教育目標	学校経営の方針
自ら学び豊かな心とたくましく生きる力を持った児童の育成	○多様性を認め合い、誰一人取り残さない個別最適な学びの実現を図るとともに、地域との協働による教育活動を通して、持続可能な社会づくりに貢献する。 ○ISSの取組を通して、持続可能な社会の担い手としての自覚や資質を育む。

今年度の重点目標

〈学校経営の4本柱～2022しみずっ子生き生きプラン〉

- 学ぶ力の育成 : 新たな教育課程を踏まえ魅力ある教育課程を実施し、主体的に学ぶ力の育成と確かな学力の向上をめざします。
- 実践力の育成 : 互いのよさや可能性を発揮させながら、集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、自ら考え行動する力の育成をめざします。
- 豊かな心の育成 : 自他の命を大切に、互いのよさを認め合う心情を育て、居心地の良い学級づくりに努めます。
- 安心安全な環境づくり・元気な体の育成 : 学校教育環境を整えるとともに、命を大切に、安心・安全な社会の担い手としての素地を培います。

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
「学ぶ力の育成」について、主体的に学ぶ意欲を育て、学習指導の充実に努め、基礎・基本の定着を図る。	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わかる・できる授業づくり</li> <li>・指導方法の工夫改善</li> <li>・主体的で対話的な授業展開</li> <li>・地域の教育力の活用</li> <li>・幼保・中との連携の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究「みんながわかる できるよこび～タブレットを使った学習指導の工夫」で指導改善に努めた。タブレットを使うことで互いの考えや意見を共有し学習意欲が上がった。タブレットを手段としてではなく目的として使っている場面があったことが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットを1つのツールとして必要な時に学習に活用していく。児童が主体的に活動できる教育課程を編成する。基礎・基本の定着を図り、児童が見方・考え方を働かせながら深い学びが実現できるようにしていく。</li> </ul>
「実践力の育成」について、学校生活の中で自ら考え行動する力の育成を図る。	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主的・実践的な態度の育成</li> <li>・望ましい集団活動による、よりよい人間関係づくりの促進</li> <li>・目標・実践・振り返りで学級づくり</li> <li>・児童が主役の学校生活の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい生活習慣の中で児童が主体的に活動できるよう、係や実行委員などの役割を自覚させ、互いに認め合い高め合える集団を育てることを目指した。活動の振り返りを大切にする中で、児童は見通しを持ち、次に生かしてつなげることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・徐々に異学年交流や縦割り活動を取り入れていき主体的に活動させることを通じて、児童の人間関係形成、社会参画、自己実現に向けて、集団や社会の形成者としての見方・考え方を育てていく。</li> </ul>
「豊かな心の育成」について、自他を大切にする心を育て、一人一人の教育的ニーズに適した支援に努める。	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳教育・人権教育の充実</li> <li>・自他を認め合う教育の充実</li> <li>・いじめ・暴力等の未然防止</li> <li>・児童支援体制の充実</li> <li>・情報モラル教育の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援方法や支援体制をはじめ、個に応じた配慮を大切にした。また、自他を認め合える温かい学級を基盤とし、「困ったことアンケート」で定期的に児童理解を図った。「命の授業」を発達段階に合わせて系統的に実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童理解を深め、学習指導と合わせて支援体制をさらに充実させる。また、家庭や地域と連携して教育活動を充実させ、豊かな心を育てていく。</li> <li>・インクルーシブ教育のさらなる充実を図る。</li> </ul>
「安心安全・元気な体」について、心身ともに安心・安全な学校づくりを推進する。	1・2・3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安心安全な教育環境の整備</li> <li>・健康な体づくり・心の居場所づくり</li> <li>・交通安全指導の充実</li> <li>・防災・防犯教育の充実</li> <li>・危機回避能力の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍での対策をとった学校生活を通して、今、何が必要なのか、具体的にできることは何かを考え、ISS活動を基盤にしながら、児童は安心・安全な生活をつくらうと活動することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の不安に寄り添い、困ったことがある時に気軽に相談できる環境づくりを目指す。地域やPTAとの協働で、児童の心のケアや健全育成を図る。</li> </ul>

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

ISS活動を清水小学校独自の仕組みにグレードアップさせ、日常の活動の中に溶け込むようになればと願う。この活動を支えているのが地域の熱狂的な見守り隊の皆様方で、清水小の宝ではないかと思う。さらに広くとらえるのであれば、SDGsなどの考えも組み込んで如何かと考える。

### 今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針

学校教育目標達成に向けて、教職員一丸となって教育活動の展開に努めた。今年度も感染症対策を行いながら、様々な教育活動を工夫してできる形に変えて実施したが、何が本当に必要なのかを精選するよい機会ともなった。これを今後の計画に生かし、コミュニティスクールと地域学校協働活動を一体的に推進して地域との協働で児童を見守り育てていく。